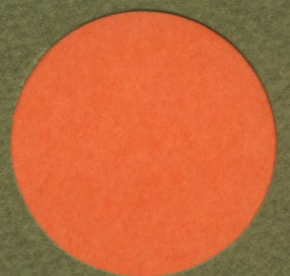
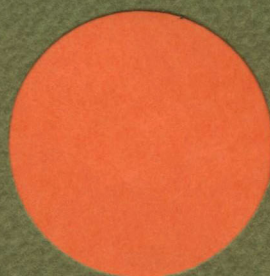
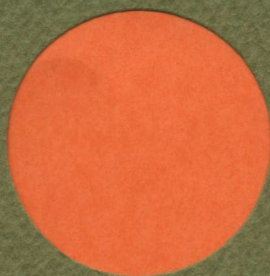
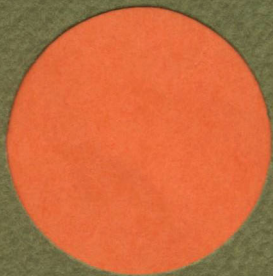


.....
企 業 と デ ザ イ ン
1970年度のアメリカのデザイン

2

INDUSTRIAL DESIGN NEWS

..... 産業デザイン情報



《企業とデザイン》

“デザイナーは企業経営上の言語、思考方式についての知識も広く習得しなければならない。新しい世代の経営者は、進歩的でしかも科学的である。したがって、デザイナーに対して単なる《デザイン提案》以上のものを期待するであろう。デザイナーは長期的プランニングに関与していなければならない。”

これは1969年のICSIDロンドン会議におけるDr. Earleの言葉である。(Form 51 “Design management”より)

産業デザインは、技術が複雑化するにつれて個人的活動からグループワーキングへと、そして企業におけるデザインの役割はより一層重要になって来ている。

昭和46年2月に日本産業デザイン振興会が実施した“企業におけるデザイン情報の要求実態調査”においてもこれからの企業におけるデザインマネジメントが対決する問題として、情報やデータを要求と対比させて評価した場合、インフォメーションの管理とその体制の確立が重要な課題となることが明らかにされている。

現在のインフォメーション量は、一般専門文献においては10年毎に、化学文献においては8年毎に、電子工学においては5年毎に、そして宇宙工学においては3年毎に2倍になるといわれている。情報化時代といわれる現代において、企業においてデザインの果す機能は情報管理の側面から経営的に考察されなければならない。

Form 51は“Design Management”の問題をとりあげているが、デザインマネジメントとは未来の計画的準備という基礎の上で企業における一定の目的を目指す活動である、としてデザインマネジメントに関する2つの重要な問題、即ち

- ① 企業の目的体系
- ② 体系的インフォメーション作業

について論じている。

- 変動する需要構造の計算
- 未来の消費者行動をどのようなものとして計画するか
- 未来の人間の住環境、労働環境の予測

など、未来のデザインマネジメントにおいては変化する社会の目的設定に留意し、それを未来の市場に対する企業目的および決定に算入しなければならない(ロベルト・ユンク)。

しかし、また、どのような基準によって目指されている目的が真であるとすべきなのか?(ヴェルナー・シュテルツァー)という疑問も投げかけられている。

Form 51において“Design Management”について論じているエーリッヒ・ガイヤーはAW-Designのリーダーであるが、ここに西独における“企業とデザイン”について概説する。

西独における企業とデザインの問題は最近とみにその重要性が認識されその度合いはますます昂まりつつある。組織的な動きとしてはGestaltkreis im BDIと前記AW-Designが注目される。

Gestaltkreis im BDI は、従来の BDI (Bundesverband der Deutschen Industrie) の Arbeitskreis für Industrielle Formgebung (工業デザイン研究グループ) が企業におけるデザインの重要性の再認から 1954 年に再組織されたもので、正しい人間環境の発展形成のために果すデザインの役割が大きく且つデザインはこれから逃れ得ない責任をもっている、という観点から企業の経済的関心だけでなく、合目的社会環境の正しい発展のため企業はデザインに対し積極的姿勢をもってデザインポリシーを確立し、意識の向上と企業の正しい方向づけをすることを大きな目的として活動している。

AW-Design (Arbeitsgemeinschaft der Wirtschaft für Produktdesign und Produktplanung e.V.) は、デザイン、プロダクトプランニング、環境プランニングにおける指導者や専門家のセミナー・スクーリングにより、企業におけるデザインの重要性の認識・デザインマネジメントの方法論等について研究するための超企業的機関であり、1963年、西独の有力企業のイニシアティブにより、バーデン・ヴュルテンブルグ州政府、西独能率協会 (RKW) の後援の下に設立された。

設立に当っては

Deutsch Werkbund e.V.	(ドイツ工作連盟)
Rat für Formgebung	(西独デザイン協議会)
Verband Deutscher Industrie-Designer e.V.	(西独工業デザイナー協会)

が積極的に参画した。

この AW-Design のメンバーは、経営管理者、専門家、デザイナーを主とし、企業目的のための実際面における補習教育に対し、高い観点(特定の企業に限定されず共通の広い立場)からデザインに積極的関心を有する企業は自由にメンバーになることができる。その主なメンバーは、Robert Bosch GmbH, Daimler-Benz AG, IBM Deutschland GmbH Klöckner-Humboldt-Deutz AG など、西独工業を代地する有名企業のほかに Olivetti S.p.a. などの外国企業もメンバーになっている。

AW-Design の大きな目的は プロダクトデザインおよびプロダクトプランニングの方法論、体系的基礎形態における情報手段の拡大、実践のためのケーススタディなどで、デザインマネジメントも大きな研究課題の一つとして研究討議されている。

(T)

《1970年のアメリカのデザイン》

INDUSTRIAL DESIGN (12/70) は、1970年におけるアメリカのデザインを

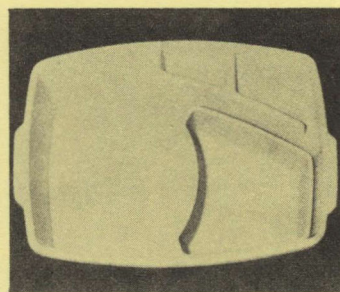
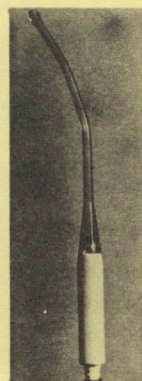
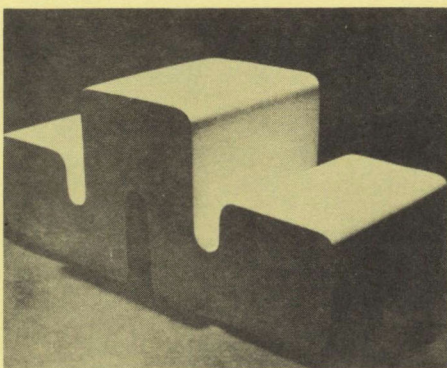
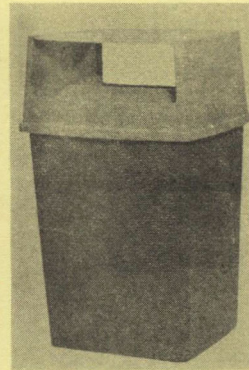
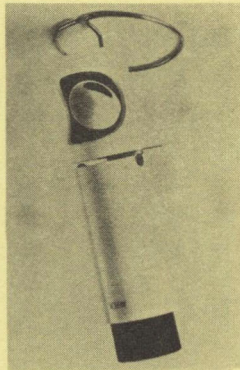
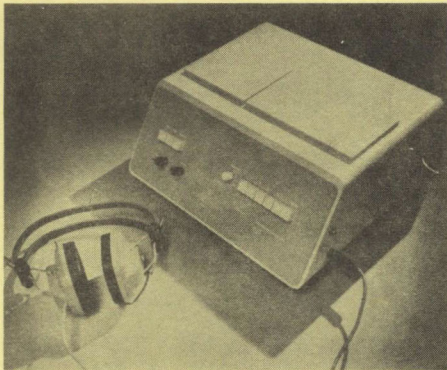
1. 事務機器・産業機器
2. 家庭用・内装用品・家具
3. 医療および科学機器
4. パッケージとグラフィック
5. 消費財
6. 屋外施設

の各分野に亘って展望している。同誌は冒頭に次のように述べている。

“選ばれた製品180品目(候補製品約2000)は、いわばアメリカのデザインの一断面を表わしている。いくつかの場合は個人の努力の結果を見出す。しかし多くの例では、技術・企画組織の構成員としてのデザイナーが強まった。技術の複雑化に伴い次第に市場に表われる製品は、デザイナー、エンジニア、営業関係者による苦痛にみちた長期間の評価の前にさらされるのである。”

以下、選ばれた製品のうちいくつかを紹介する。

(T)



1	2	3
4	5	6

- 1 / 聴覚的教育用機器。 2 / Xerox 社の顕微鏡。 3 / ゴミ箱。 4 / ウレタン容家。
5 / 使いすて用の血液除去機具。 6 / 使いすての入院患者用洗面器。

《スーパー・マーケットとパッケージ・デザイン》

1930年の不景気時代における極端な販売不振と、広い店舗スペースが安く借りられることなどが直接の動機となって発生したスーパーマーケットは、消費経済、社会構造の変革により目ざましい発展を遂げ、1938年には年間売上10億ドルであったのが、10年後の1948年には78億ドル、更に1964年には55,400店 480億ドル（年間売上50万ドル以上のみでは30,339店 430億ドル）と急速な伸びを示しているが、スーパーマーケットの大きな特長である Self Service Retailing の Silent Salesman としてのパッケージデザインは、スーパーマーケットの発展に大きな役割を果たしている。この 特に、スーパーマーケットの発展に大きな役割を果たしている商品のパッケージデザインについて、オレゴン大学の Prof. Ronald R. Gist は《Management Perspectives in Retailing》でパッケージデザインについていくつかの問題点を指摘している。

A) スーパーマーケットオペレーターはパッケージに何を期待するか。

1) Shipping carton について

(Package around the package)

- 輸送、荷扱い、開梱中に十分な強度を有すること。
- コンベアー使用に可能なサイズ。
- 過重、過篤（かさばりすぎない）でないもの。
- 内容の明示（ブランド、種類、サイズ、カラー）
- マーキングは四隅に分り易く。
- 開梱し易く、且つ開梱方法の明示。
- 開梱されたとき内容物（商品）にそのままブライス・スタンピングが可能であること。

2) 個装について

- 内容物に対しその物理的保護に十分な強さをもつばかりでなく、法的にきめられた事項（例えば Food and Drug Administration の規制事項）を明示。
- ブライス・マーキングのための white-spot およびブライス・マーキングに対する十分な強さ。
- メーカーのコードやメッセージは white-spot と明確に区別され price-marking と混同されてはいけない。
- パッケージは特にサポートを必要とせず安定し、既設の棚やケースに格納、配列し易いこと。
- 包装はすべてのインフォメーションが読み易く、製品のさし絵、出来上りの明示、および内容の特長などの強調・明示が必要。
- 時として、側面、端面が展示・陳列されることをパッケージデザイナーは考えなくてはならない。また、余分な shelf-space をとるようなパッケージはいけない。
- premium のパッケージについては特に注意しなければならない。

B) 消費者はパッケージに何を望むか

- 美しい包装が好まれるのは当然であるが、就中、消費者は便利さ（convenience）と実

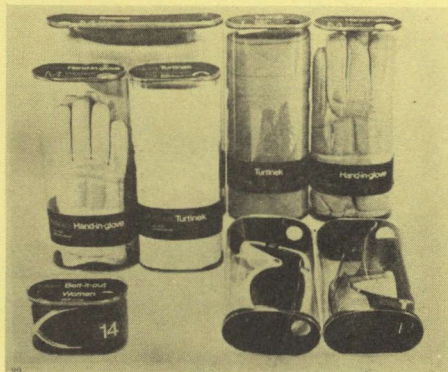
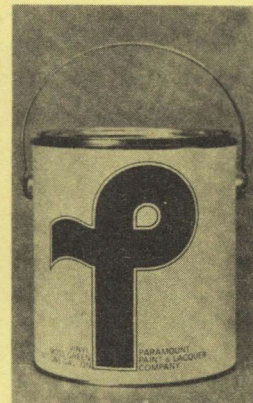
用性 (utility) とを怠している。消費者は単なる見せかけの包装にはだまされない。

- 消費者は包装に内容物の十分な保護、保存効果を期待している。
- 開けやすく、使い易く、閉ちやすいもの。
- 引きちぎるフタ、さし込みのフタ、キーで開けるカン、十分に働かないプレス等は好まれない。
- 消費者は、家庭で棚に収納するのに適したパッケージ、安定したパッケージを好む。
- 親切なインフォメーション (使用方法、特長、価格、有効期限等) を求める。開けたら見えなくなるようなインフォメーションは困る。
- 消費者はパッケージにその商品の正直な価値を期待している。

以上のことからパッケージについては、販売面からの期待も、また消費者の期待も共通しており、パッケージデザインはこの両面からのアプローチが重要である。

INDUSTRIAL DESIGN (USA) 17/10/1970 が 1970 年におけるすぐれたデザインを各分野から選んでいるが、パッケージ部門においては、1970 年のパッケージデザインは極めて高い水準にあったことを指摘している。選定は、質、即ち明瞭で読み易い形状字体、普遍的な製品の想像に富んだ処理 (imaginative treatment) 使用者にとっての使い易さ、便利さ等を基準にして行われたもので、スーパーマーケットの陳列棚での展示・陳列をよりよくするため Calgonite や Screaming Yellow Zonkers のアイテムも対象としてとりあげた。

(K)



1	2	3
4	5	

1/B P石油会社製品。デザイナー; George Nelson社。2/中味のみえるパッケージ。デザイナー: Selame Design Associates。3/ペンキ缶。販売会社イニシャルのPがデザインされている。デザイナー: FRAZIER/Hauge & Associates。4/スキー用具の販売用パッケージ。デザイナー: R. Gale 他。5/台所洗剤パッケージの好例。デザイナー: J. Blyth 他。

《アメリカにおける消費の見通し》

アメリカにおける消費の長期見通しについて、日本貿易振興会発行の“貿易情報”675は、近着のFurniture World誌に掲載されたResearch Institute of America, Inc.の行った消費予測を紹介している。それによると、

・中期予測(1970~85)としては、今日、消費者のサービス関係の総支出額の約3分の1はハウジング・サービスという特殊な分野に向けられており、将来、支出の内容は変わってもその比率は変わらないだろう。また、保健医療など多様な消費者サービスに対する支出も伸びるだろう。教育関係の支出も技術革新と情報に対応する知識の吸収努力を反映して増大するだろう。一方、レクリエーション関係は横ばいに推移するだろう。

・長期予測(1985~2000)としては、自動車や各種設備のリース産業が急速に成長しており、家庭冷凍庫メーカーは販売よりもリース中心の業務形態に移行するだろう。主な耐久消費財がリースになれば支出は据付費、サービス科といった形でなされるだろう。最後に生計の所得水準の大巾向上に伴い、非耐久消費財の支出全体に占める比率が次第に減少する点が注目される。

・消費者の支出の内訳(時価の総支出額に占める比率—%)

	1955年	1970年	1985年	2000年
耐久消費財	15.6	15.0	14.8	14.5
自動車と部品	7.2	6.4	6.0	4.5
家具・什器	5.4	4.7	4.5	4.0
T・V、ラジオ、スポーツ用品等	3.0	3.9	4.3	6.0
非耐久消費財	48.5	42.4	38.2	30.0
食料・飲料・タバコ	28.4	23.0	19.5	16.0
家庭用器材	3.8	3.4	3.1	2.0
その他	16.3	16.0	15.6	12.0
消費者サービス	35.9	42.6	47.0	55.5
ハウジング	13.3	14.7	15.6	16.0
保健医療サービス	3.9	5.8	6.9	5.0
教育・福祉・宗教関係	2.2	3.1	3.6	8.0
レクリエーション・レジャー	1.7	1.6	1.6	4.0
その他	14.8	17.4	19.3	22.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

非耐久消費財向け支出の比率は引続き漸減が予想される。その原因の一つは人口構成の変化である。家庭が幾分小型化し、全人口に占める子供のない大人の比率が増大するに伴い国民1人当たりの非耐久消費財向け支出は多くの品目について増大するであろう。これに対し、耐久消費財は、総所得の中で安定した比率を占めるであろうが、個々の主要製品群の比率には変化があると考えられる。自動車のような大型商品に対する支出には一定の限度があるが、娯楽・レクリエーション用品向け支出は大巾に増大するであろう。家庭家具一般については、需要がより廉価な「使い捨て」の家具へと向う傾向がみられる反面、新世帯の数が増加するため、支出は現在と大体同じ水準を保つ見込みである。この場合、市場に大きな影響を与える要因は、機動的でありたいという望みと、居所を変えられる能力である。

(T)

NORSK DESIGNCENTRUM の概要については「産業デザイン情報」№1に述べたが、このセンターの各コミッティーの機能と活動は次のとおりである。

1) Jury

Juryは、デザイナー、主婦(消費者協議会)、エンジニア(技術研究所)の他にスペシャリスト30名によって構成されている。このスペシャリストは、家具、ガラス、陶磁器、繊維等のグループ別に随時Juryに編入される。

2) Juridical Committee

デザイナーと企業とのデザイン契約問題やデザイン保護(工業所有権法による問題だけ)の問題を扱っている。

3) Education Committee

企業のためのトレーニングコースの計画・実施、学校でのデザイン教育についての協力等

4) Prize Committee

年間のノールウェイのグッドデザインの選定のための計画(選定はJuryが実施)

5) Competition Committee

インダストリアル・デザイン関係のScholarshipのためのコンペ等について計画・検討・審議する。

これらのCommitteeは、前述のようにそれぞれのActivityのInitiatorとなるだけであり、審議、計画、立案、実施の各ステップが組織の中で緊密な連ケイの下に、円滑に運営されている。

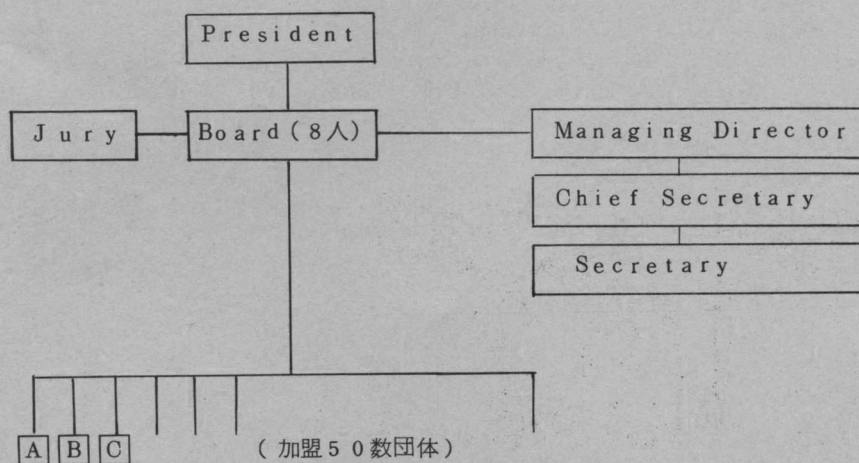
LANDESFORBUNDET NORSK BRUKSKUNST (The Norwegian Association of Applied Art)は、NORSK DESIGNCENTRUMと共にノールウェイにおける産業デザインの振興に大きな役割を果たしている。NORSK DESIGNCENTRUMがインダストリアル・デザインの振興に貢献しているのに比し、このLANDESFORBUNDET NORSK BRUKSKUNSTは、クラフト・デザインの振興に大きな役割を果たして来た。この協会の歴史は非常に古く、その母胎は1918年に、理論的・実際的プログラマーとして知られているT.B.KiellandとJ.Prytzの2人の活動家によって設立された。FORENINGEN BRUKSKUNST (The Society of Applied Art)である。戦後、このFORENINGEN BRUKSKUNSTはその組織・機能の充実にともなって、その名称を現在の名称に改めたが、その後も組織の再編と機能・活動の充実に続き、クラフト・デザインの分野のみならず、その活動分野をインダストリアル・デザインまで拡げ、その組織名

も英語名でいうときは The Norwegian Art Craft and Industrial Design と称んでいる。

この組織のメンバーは、

- I.D Norsk Gruppe for Industrial Formgiving (ICSIDメンバー)
(ノールウェイ・インダストリアル・デザイナー協会)
- Norske Brukskunstnere
(ノールウェイ・ハンディクラフト協会)
- Norske Interiørarkitekters Landsforbund
(ノールウェイ・インテリア・デザイナー協会)
- Norges Eksportråd
(ノールウェイ 輸出協議会)
- Forbrukerrådet
(消費者協議会)
- Norges Industriforbund
(ノールウェイ産業連盟)
- Norges Husmorforbund
(ノールウェイ主婦連盟)

等の政府団体・民間企業連合、ミュージアム学校等50数メンバー団体によって構成されている。これらの構成メンバーのうち、クラフト、I・D、インテリアの3メンバー団体が実際の活動面で協力している。また、事業運営経費は100%政府(Ministry of Culture)により補助されている。



Boardの8人は、デザイナー、アーキテクト、主婦連等の代表8人で構成されており、常任の他にSUBが8人おかれている。常任メンバーに事故があったときはSUBが代り会議は常に8人のメンバーによって運営される。また、メンバー団体のうち実際の活動面に協力しているのは次の3団体である。(図示A, B, C)

A: Norske Brukskunstnere

Board 5人 Member 170人

B: I.D Norsk Gruppe for Industriell Formgiving

Board 4人 Member 35人

C: Norsk Interiørarkitekters Landsforbund

Board 7人 Member 165人

Jury のメンバーは、Textile、Craft、Jewelry、Interior のデザイナー4人で構成されており、この4人に President を加えて審議される。(インダストリアル・デザインについては Norsk Designcentrum が実施している。)

また Jury の他にテンポラリーなものとして Scholarship のコミッティーがある。ノールウェイでは、毎年、音楽、絵画、彫刻、デザイン等の各分野から1人ずつ選定しているが、クラフト・デザインの部門については、このコミッティーが選出し、奨学金が与えられる。

この Landesforbundet Norsk Brukskunst の主な Activity は次のとおりである。

1) Exhibition

毎年、Lillehammer、På Maihaugen のミュージアムにおいて、ノールウェイ工芸展《Norsk Brukskunst》が開催されるが、これは前記 Jury によって選定される。

2) 内外のインフォメーションサービス

3) デザインの相談・指導

- 学校のデザイン教育に対する協力。スライドの貸与等
- 企業に対するデザイン相談およびデザイナーの協力など
- デザイン関係刊行物《Bonytt》に対するマテリアル提供など積極的協力。

(T)

1月20日～1月24日の5日間にわたって西独のケルンで開催された“西独家具見本市”は西独の家具メーカー、家具関連企業約890社が参加して盛況を呈したが、この見本市に見られた家具デザインの動きについて2・3述べる。

1) 環境構成家具

室内居住空間の有機的・合理的利用、構成の簡便さ、経済性などの面から Behr 社、Interlubke 社などが数年前から環境構成家具の開発を進めて来ているが、この見本市においても環境構成家具の積極的開発の発展が見られる。その開発のポイントは、十分に検討されモジュールによる同一規格にもとづくものを表面仕上にバリエーションをもたせ、棚や抽斗等に工夫をこらすと同時に、リビングルーム、ベッドルーム、スタディールームなど異った部屋の異った機能に応じて構成できるような新しい機構の組み込みなどである。

2) 軟体構造の休息用家具

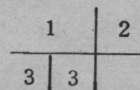
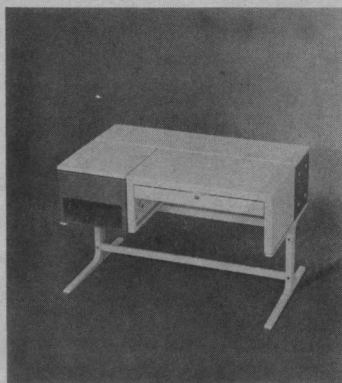
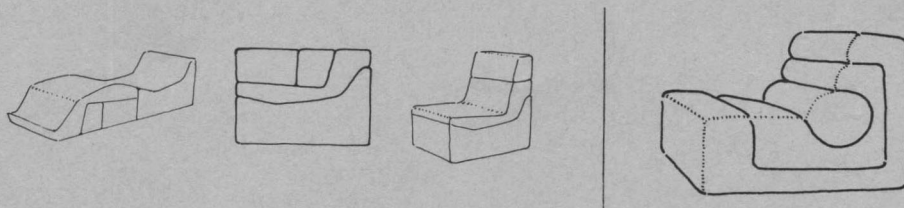
従来のスプリングを応用した張りぐるみのクッション構造から発泡プラスチック応用のクッション材の自由な組合せによる軟体構造の座家具が著るしく増えてきている。また坐や背に当る部分の緊結、組合せも、従来の椅子の概念に促われず自由な着想から出発している点これからの座家具のデザインの方向として注目される。

3) Duromer 利用の Viessman の家具

暖房設備のメーカーである Viessman の技術と Gugelot のデザインによって共同開発した Duromer (プラスチック) 応用の棚は独自の緊結構造として注目される。Duromer は表層部が硬く、内部は発泡状態であるため軽くて且つ強度もあり、付属金具などを一切必要としない点画期的といえる。また、この Viessman の Duromer とアルミニウムによるテーブルのシリーズは、機能的でシンプルなデザイン、構造の簡潔な点、すぐれたデザインといえよう。

(T)

1/Model 《VARID》・デザイン・製作:Petrocarbona GmbH。2/デザイン: Christian Adam。3/Duromer 製品・テーブル本体: Duromer。脚: アルミニウム。



《ニューヨーク市場の新しい家具》

ニューヨークの家具協会（製造業者および輸入業者）の代表的な14社が、昨年10月に1971年のための新しい家具を発表した。

INTERIOR(12/70)の“Designer's Saturday”からその主なものをここに紹介する。

1. 事務用構成家具

米国の事務人口は3400万人を超える。しかもその数はますます増加しつつあり、執務空間の再分割が緊急の課題となっている。LEHIGH-LEOPOLDは、長期に亘る事務作業習性に関する研究の結果、Fuller Robinsonのデザインによる“SOLVE”事務家具システムを開発した。“SOLVE”システムの多岐にわたる構成方法は、如何なる事務空間にも適応させることが出来る。

材料はホワイトオークの15プライで積層面がそのまま出ている。甲板の仕上げは、インキなどでよごれない合成ラッカー仕上げである。（写真1）

2. 廻転椅子

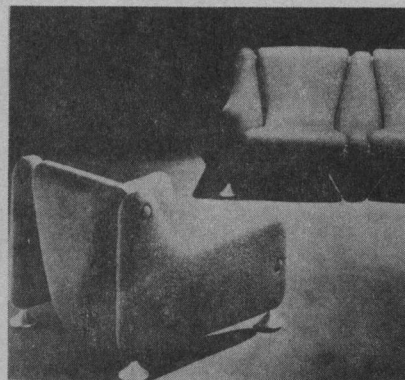
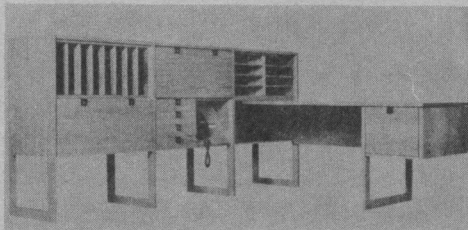
通常の廻転椅子は、その廻転機構部が座と脚の間に出ているが、この廻転椅子の大きな特長はメカニズム部分を非常に小さくまとめ座基部の内部におさめてしまったことである。JG Furniture Co., はこのメカニズムの開発に2年を要したといわれる。金属部はクローム仕上げである。（写真2）

3. 連結安楽椅子

FRITZ HANSEN の発表した連結式のユニット安楽椅子はLuigi Colaniのデザインである。スチールメッシュのコアをフォームラバーでつつみ、張りぐるみしたもので、各ユニットは、背と座の前面を1本の金属ロッドで連結する構造になっている。（写真3）

4. 大型クッション家具

大型クッション家具は、最近の家具の一つの傾向である。ここに紹介する“Ciuingam”（チューインガムと発音する）は、Stendig Inc. が発表した一連の椅子のうちの一つである。フォームラバーをステッチのある柔かいイタリアン・レザーで張りつつんである。デザインは、Decurso、Depas、d'Urbino、Lomazzi。（写真4）（T）



《プラスチックのデザイン》

昨夏、パリにおいて開催された第1回全欧州規模のプラスチックの展示会《Europlastic 1970》のカタログの中で エルミン・シヤスタネは、「昔、石器時代があり鉄器時代、青銅器時代があった。我々自身の経験の中では、ガラスと紙の時代があった。そして今は、化学と物理と電子工学の君臨する時代である。我々には、果してこの不可思議な、急速に進展する世界の枠の外に超然としていられるであろうか。」と述べている。(Mobilia 8/70)

プラスチックが世紀の新材料として登場してから久しい。家庭用品、厨房用品、家具をはじめ工業機器にまであらゆる面でプラスチックは使用されている。

可塑性から来る造形の自由さ、量産性などの材料特性は産業デザインに大きな影響をもたらして来たが、一方においては、木、金属、陶磁器、ガラスなどの材料の安価な代用品として使われて来た。しかしデザインにとって材料の本質的理解は非常に重要なことであり、洋食器の《銀》と《ステンレス》におけると同様のことがプラスチックの場合においてもいえることである。

プラスチックをプラスチックとして見直しプラスチックの材料特性を生かしたデザイン開発が最近各国において真剣に取り組まれている。昨年9月にアメリカ Louisville の家具展示会においても プラスチックのままのプラスチック家具が注目をあびて来ている。Mobay Chemical 社 Duromer (中心部の密度約15ポンド/ft³ 表層部の密度約70ポンド/ft³の硬質ウレタンフォーム)製品、西独 Elastomer AG 系の North American Urethans 社の Unidor を使用した椅子等々、がこの展示会で注目された。

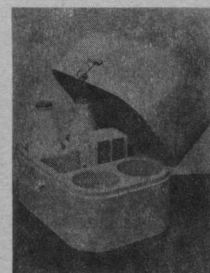
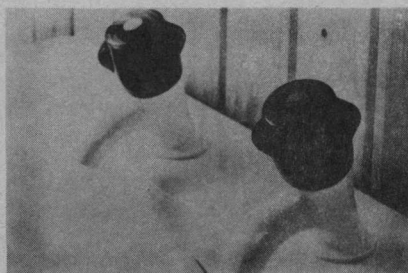
Mobilia 11/70 は、《Designing in Plastics》のタイトルで、プラスチックは安価であるとか、技術的によりすぐれているとかいう安易で、ありふれた意味以上に我々の生活で革命を起している、より積極的に真剣な努力の結果としてプラスチックがそのイミテーションをも許さない、しかも我々がそれなしでは過せない美的な質をもつことが示された、として、ロンドンでの展示会《Plastic in the Design Centre》におけるいくつかのすぐれたプラスチックのデザインを紹介している。

1

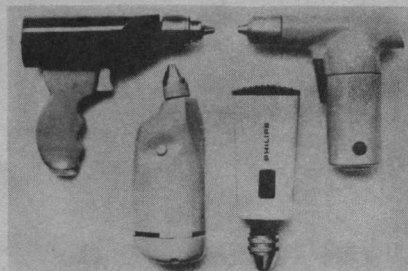
2

(T)

1/プラスチック製付属品：構造全体が新しく、ワッシャーの塵耗も少ない。把手は透明アクリル、その他の部分はアセタル・コポリマー、デザイン・製作：IMI開発会社。2/牛乳その他乳製品の冷蔵庫用容器(受賞製品)デザイン：M. Norden.



3/MEDWAY COLLEGE OF DESIGN の学生による電気ドリルのプロトタイプ。



4/椅子(パースペックスとスチール)デザイン・製作：

P. Hoyte

3

4

◀アメリカの Consumer Products のデザイン▶

アメリカのデザイン専門誌 "INDUSTRIAL DESIGN," は毎年、年間のアメリカのデザインの回顧と展望を特集しているが、I.D 12/70 は、"17th Annual Design Review," で各分野における1970年のアメリカのデザイン展望を特集している。

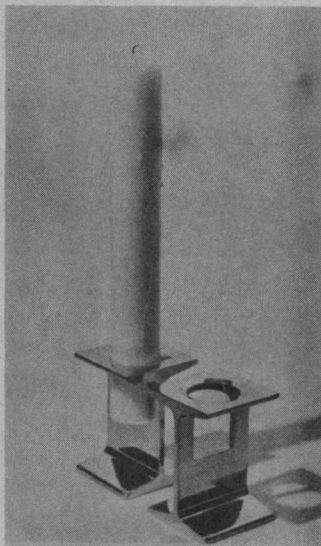
Consumer Products については、T.V.、ラジオ、ステレオ、掃除機などの家電製品をはじめ、一般家庭で広く使用される食卓用品、厨房用品のほか、戸外レクリエーション用品まで広汎な分野にわたる消費財のデザインについて展望している。それによると、T.V. ラジオ、ステレオなどの家電製品については、数多くの製品が市場をにぎわしたが、特に、T. Madawick、B. Grae L. Mitchell の RCA スタッフによりデザインされた盲人のための Braille System (点字システム) ラジオをとりあげている。

Consumer Products の分野で対象とした製品のうち、印象的なものとして、ピックアップされているのは、平均的家庭の一週間分の塵芥をまとめて密封袋 (16×17×9 インチ) に入れる Whirlpool Corp. の Trash Masher (塵芥粉碎機) がある。また、一般的にデザインの傾向としてはポータビリティと簡便な操作をねらったものが多く、ボンネットの中に7オンスのモーターを組み込んでしまった。Sunbeam のヘア・ドライヤー、Keck-Craig Associate のデザインになる小家庭用の Wall-mount 方式の真空掃除機、など その代表的なものといえる。また、コンパクトにまとめられた場所をとらない角型のスライド・プロジェクター (Bell & Howell)、弱まった電池や電気接触などによる発火ミスを解決した Magicubu (Sylvania)、簡易捲取機構を備えたエレクトロニック・フラッシュカメラ (Keystone) などがある。

家庭用品では K. Brozen デザインのハイ・インパクト・ポリスチレンのカラフルなテーブルウェア、構造用のアルミニウム I ビームを使った R. Lionetti のローソク立て が面白い。

レクリエーション用品としては、C. Hanson のデザインした女性用スキーブーツやエポキシ樹脂のコアをアルミで被覆した D. Arenth、D. Fish、J. Howe デザインのテニス・ラケット などがある。

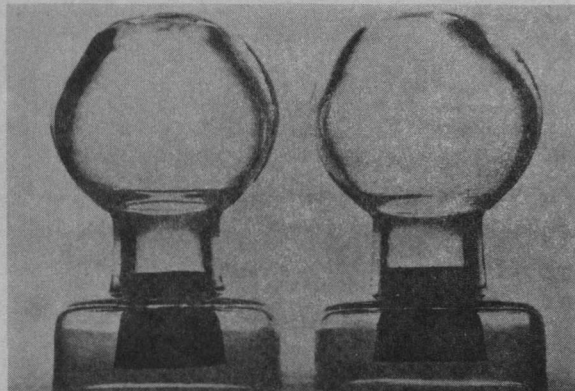
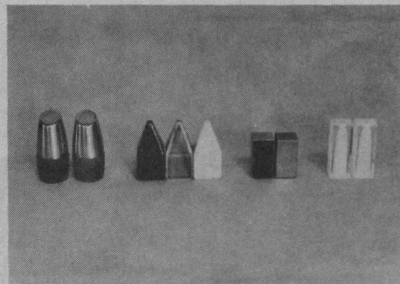
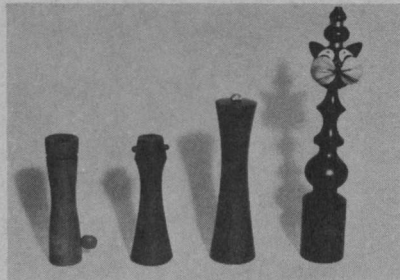
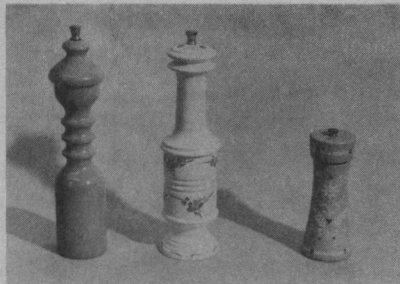
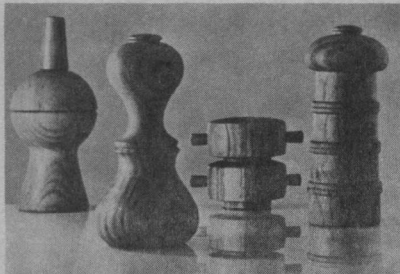
(T)



◀ See-through の S・P セット ▶

和食の食卓におかれる醤油さしと同じように S・P セットは食卓用品として絶対に欠かすことの出来ないものである。したがって、塩、コショウの容器であると同時に、テーブルアクセサリとして、木、金属、陶器、ガラス、プラスチックとそれぞれの材料の持ち味を生かし、また材料の巧みな組合せにより、形状も動物や植物をモチーフにしたり、S・P セットのデザインは実に多種多様である。

Design 12/70 は F. THROWER のデザインになる See-through の S・P セットを紹介している。この S・P セットは、高さ 3 ½ インチ、直径 2 インチで、ベース部分は、コルクとゴムの栓で密閉される。又容器は同型で、何れも振り出し孔は一つずつである。メーカー： Dartington Glass 社。価格： 10 シリング。 (T)



1	5
2	5
3	5
4	5

- 1 / デンマーク (Dansk) チーク
- 2 / 右から：イタリー、オランダ、西ドイツ
- 3 / 右から：デンマーク、西ドイツ、デンマーク
- 4 / 右から：イタリー (プラスチック)、デンマーク
フィンランド (陶器)、西ドイツ
- 5 / Dartington 製品 (ガラス)

《Sarpaneva の新しい鍋》

フィンランドのデザイナー T. Sarpaneva といえば、今までも、ホーロー鉄器やステンレス製の鍋、キャセロール等の家庭用品、厨房用品などのすぐれたデザインで広く知られているが、mobilia 12/70 は Sarpaneva の最近のデザインになるステンレス鍋を紹介している。ステンレス鍋はステンレスという材料の特性を機能的フォルムに生かしたものが多いが、この鍋の特長はステンレスという冷たい材料を用い乍ら柔らかい丸味をもった造形処理で逆に暖かさを感じさせる点にある。

鍋の底は 3mm 厚のアルミニウム層で仕上げされた二重底であるため熱伝導は非常によい。表面は磨き仕上げである。このデザインは写真に示す鍋の他サービングディッシュ、ジャグ、ボール、プレートなどがシリーズになっている。

メーカー：Opa Oy (フィンランド) 写真1 (T)

《デンマーク・デザイン賞のトランジスタラジオ》

1970年度デンマーク・デザイン賞 (ID-Prize 1970) は候補製品 32 点のうち、写真-2 のトランジスタラジオと Ole Miang Export 社の油圧式積載クレーン および E. Rasmussen 社のステーション・シグナルボードの 3 点に決定した。

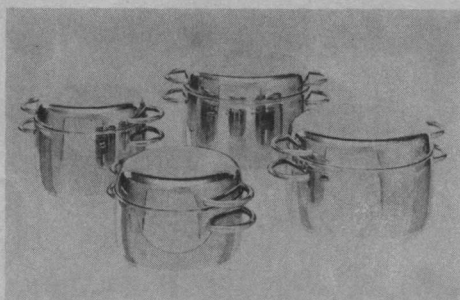
1970年度はデンマーク国内経済情勢の悪さも一部影響してか、デザインは全般的に低調で技術的にもとくに目立つものがなかったことを選定委員は指摘している。

その中であって、この Bang and Olufsen 社の新しいポータブル・ラジオ "Beolit 600 Colouradio" はアトラクティブなフォルムと操作性の良さ、それにかんがりの高音質を得ることに成功している点で出色といえそうだ。

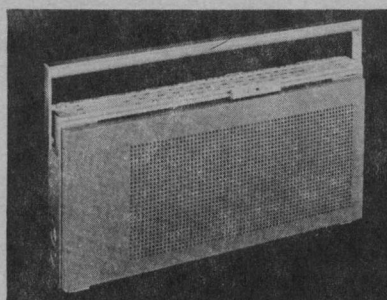
デザインは Jacob Jensen と B&O 社の社内デザイン・スタッフで、全体にかなりこまかい神経を行きとどかせている。

高い音質効果を狙ったためやや大きめ (高さ 172mm × 巾 358mm) であるが、57mm の奥行きの中に楕円型の大口径 (180mm × 120mm) スピーカーを巧みにおさめており、とくに選局部分の一見計算尺をおもわせる美しい処理とレタリングの見やすさが目立つ。選局は通常のダイヤルと針移動によらず、電磁的にボールベアリングを移動させているのがめずらしい。

さらにこのラジオの楽しさは "カラーラジオ" の名が示すように、両側面のパネルに黒、白、赤、カレー色、紫の 5 色が用意されており相互交換、混合使用できるのが楽しい。この両サイドのパネルに、ごくわずかの曲線をもたせることで全体をスリムにみせ、水平に使用するときのスタンドを兼ねたハンドルの内側も半円型の R をもたせることで、指に当たる感触の良さもうかがわれる。小売価格は英国市場で 36 ポンド 10 シリング。 (S)



1



2

◀壁かけ式の小型飲料水クーラー▶

わが国でも鉄道の駅の構内などでスタンド式のスプリング・クーラーをよくみかけるが、この写真の壁かけタイプの小型スプリング・クーラーは、いま米国のビル内にかなり普及しつつある。

外観的にも非常にスマートであるばかりでなく、水を飲む人の足もとをじゃましないことも秀れている。このユニットは本体を壁の中に埋める必要はなく、丁度瞬間ガス湯沸器を取付ける要領で、上下2本の金具だけで簡単にセットすることができる。

本体の奥行きはわずか9インチ半で、全高が37インチ、全巾が18インチと非常にコンパクト、プレス加工による上部シンクはステンレス製、下部はビニール布張りとなメル塗装による鋼板製で、黄かっ色、グレー、ウォルナット木目、白檀色、淡グレーの5色がある。

給水能力の相違で、1時当り6～8ガロン用のタイプと12～13ガロン用のものと2種類ある。建築工事の壁面加工のときに、取付場所に水道の配管とクーラー電源のための配線、それに壁うらの奥行き4インチ半を確保さえしておけば充分である。

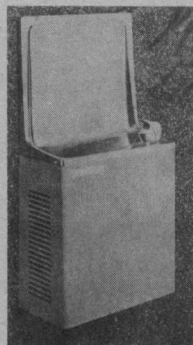
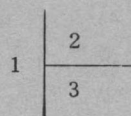
この製品は "Cordley Cooler" のブランドで米国イリノイ州 Glen Ellyn 市の Eaton Yale & Towne 社から発売されているものだが、このほかにもオハイオ州 Warren 市の The Halsey W Taylor 社から "RWM" またカリフォルニア州 Berkeley 市の Haws Drinking Faucet 社から "Haws" のブランドではほぼ同サイズのもので発売されている。

わが国の新しい建築物に取付けられる日もそう遠いことではなからう。 (S)

◀120度可視のバックミラー▶

交通の安全化は世界の急務である。米国を始めとする各国の車輛安全基準は、今後の自動車デザインの動向を大きく左右するだろう。そのうちの小さな例を一つ。英国で行なわれた道路安全コンクールでフォードからの100ポンド賞を得た120度可視のバック・ミラーの従来のものが20度程度であったことを思えば驚異的な角度である。後から来る白バイもすぐ判るといふ訳である。12月号のDESIGN誌から。 (T)

1/小型クーラー：THE HALSEY W. TAYLOR社。2/小型クーラー：HAWS DRINKING FAUCET社。3/120度可視のバック・ミラー。



INDEX

INDEXは、日本産業デザイン振興会が、定期・不定期に購入している海外のデザイン関係雑誌(情報資料目録参照)の目次から、わが国の産業デザイン振興に参考になるとと思われる項目を、分類別に再編成して作成したものです。今回は、各雑誌の70年の11月号・12月号を中心にしてまとめました。(※印は、今月号の記事の参考にしたものです。)

A. デザイン一般

(整理番号)		(雑誌略号)	(月/年)
2-A-1	設計図の著作権に関する法律を明らかにせよ	AR	12/70
2-A-2	※特集/70年アメリカのデザイン 事務・産業用機器/家庭用・内装用品および家具/ 医療・科学機器/パッケージとグラフィック/ 消費財/屋外施設/	ID	12/70
2-A-3	大学における《Youth quake》	IT	12/70
2-A-4	家庭用機器のデザイン、プロトタイプと市場性	DS	12/70
2-A-5	実生活における美術 - ウェールズの展示会から	DS	12/70
2-A-6	デザイナーにとっての9つの規則	CB	7.8/70
2-A-7	計画作業においてグループの進む道	CB	7.8/70
2-A-8	過剰 - 我々の困惑全ての原因	LAT	12/70
2-A-9	デザインの危機について	FRS	9/70
2-A-10	Educom - アメリカの新しい情報システム	BM	11/70

B. インテリア

2-B-1	1971年の生活様式	GDA	12/70
2-B-2	創刊30年特集: 変革期のデザイナー22名	IT	11/70
2-B-3	見ること、学ぶこと、遊びこと - 子供のための 3つの環境	FRS	9/70
2-B-4	ホテルでの生活と食事 - ホテル内装	FRS	9/70
2-B-5	住空間モデル	FRS	10/70
2-B-6	子供部屋の全て	DIH	12/70
2-B-7	台所: 小さくても完全な台所	ZH	11/70
2-B-8	椅子とカーペット/色とりどりのカーペットの 島の上の椅子	ZH	12/70

C・家具

2-C-1	学校用家具	IT	12/70
2-C-2	デザイナーの土曜日 — ニューヨーク代表14社の 71年用家具	IT	12/70
2-C-3	ホテル・モテル用家具	IT	12/70
2-C-4	コーヒー・テーブル・キット	DS	12/70
2-C-5	プラスチックのデザイン — 家具・食器・工具・船舶	MBL	11/70
2-C-6	Сорсо社の鋳物製品とデザイン	MBL	11/70
2-C-7	遊び場 — 新しい遊び場のモジュール・システム	MBL	12/70
2-C-8	イージャー・チェアの問題点	MBL	12/70
2-C-9	1970デンマーク家具展示会から — 話題の10作品	MBL	12/70
2-C-10	V. Parigi と N. Prina デザインの ABSベッド	MBL	12/70
2-C-11	O. Kogoj の椅子デザイン(ユーゴスラヴィア)	MBL	12/70
2-C-12	ミラノ家具サロンからの視点	FRG	52
2-C-13	コンクール80(食事設備に関するデザイン)	FRG	52
2-C-14	ユニット家具:計画的な住まい	ZH	11/70
2-C-15	イギリスの家具/18世紀の家具は今なお素晴らしい	ZH	11/70
2-C-16	携帯家具/この家具は袋からとりだせる	ZH	12/70

D・交通

2-D-1	Islander MK3 と Nymph — 小型航空機2種	DS	12/70
2-D-2	Halmatic 880 — レジャー用小型機帆船	DS	12/70
2-D-3	Electrivan — 小型電気貨物自動車	DS	12/70
2-D-4	*120度可視のバックミラー	DS	12/70
2-D-5	最初からその場に:工業デザイン Airbus A-300B	FRG	52

E・材料・建材

2-E-1	Euroceramica 社 — スペインの代表的陶製 タイル製造企業	CI	12/70
2-E-2	ヨーロッパのポースレン・エナメル工業	CI	12/70

G・照明器具

2-G-1	Melchior Wijt 社の陶製スタンド・ランプ	DS	12/70
-------	----------------------------	----	-------

H. 食 器

2-H-1	Wedgwood 社のホテル用耐久食器	DS	12/70
2-H-2	※ See-through 塩・コショウ容器	DS	12/70
2-H-3	デンマーク・ガラス製品デザイン競技入賞作品	MBL	11/70
2-H-4	※ T. Scarpaneva デザインのステンレス鍋 (フィンランド)	MBL	12/70

I. ディスプレイ

2-I-1	オンタリオ科学センター — 特売場のような博物館	FRG	9/70
2-I-2	Expap — 段ボール製ディスプレイ・パネル	GG	11/70
2-I-3	段ボール使用のディスプレイ・パネル	GG	12/70
2-I-4	500 m ² 上の展示	MD	12/70
2-I-5	展示会場 — 71 m ² (オーストリア・バビリオン)	MD	12/70
2-I-6	250 m ² 上の展示 (テクノ)	MD	12/70

J. 電気機器

2-J-1	※ 壁掛け式小型飲料水クーラー	AR	12/70
2-J-2	※ 薄型ラジオ	DS	12/70
2-J-3	ボールペン原理応用のフィルム用露光ペン	DS	12/70
2-J-4	ターン・テーブルなしの録音装置	DS	12/70
2-J-5	コンクール/新しいアイディアのための 25,000 マルク — ブラウン賞 1970年	FRG	52

M. グラフィック

2-M-1	フランスのグラフィックと一般社会	DS	12/70
2-M-2	バロック時代の手書き書体	GG	11/70
2-M-3	コンピューター・グラフィックス/コンピューター・アート	GG	12/70
2-M-4	定形化のフォーム/デザイン・インフォメーション 美学・コンピューター	FRG	52
2-M-5	コンピューターを採用した Typo-デザイン	FRG	52
2-M-6	視覚的に新しいスペクトル	FRG	52
2-M-7	グラフィック・デザインにおける問題	FRG	52

N. プラスティックス

2-N-1	着色プラスチックは新鮮な印象の外観を作る	MPL	12/70
2-N-2	今後5年間のプラスチック用染料の見通し	MPL	12/70
2-N-3	サーモプラスチックのデザイン	CB	7.8/70

O テキスタイル

2-O-1	W. Morris デザインの再来	DS	12/70
2-O-2	スウェーデンのテキスタイル - その将来	FRS	9/70
2-O-3	A. Juel のテキスタイル・デザイン個展(デンマーク)	MBL	11/70
2-O-4	A. Klingler の織り絵	DIH	12/70
2-O-5	カーペット'71	HT	12/70
2-O-6	スカンジナビアからのカーペット	HT	12/70
2-O-7	第2回ブリュッセル・カーペット・サロン 1970	HT	12/70

P. 玩具

2-P-1	大きな玩具店の新しい試み (あそび+レジャー+フィッシング)	DSZ	11/70
2-P-2	特集/〈布帛玩具〉	DSZ	11/70
2-P-3	1971年は困難な年	DSZ	12/70
2-P-4	モーター・スポーツ・レジャー	DSZ	12/70
2-P-5	GIERS の玩具	FRG	52

情報資料目録

《産業デザイン情報》の資料は、各種定期・不定期刊行物、海外調査員（JETRO）および産業意匠改善研究員の調査報告、カタログ その他の海外情報資料から選んだものです。

〔編集〕 来栖義郎(K)、高藪 昭(T)、関谷之朗(S)

定期購入刊行物

雑誌略号	雑 誌 名	国別
AW	Arkititektur und Wohnform	(WG)
AR	Architecturaj Record	(A)
A. SR	Architecture of USSR	(USSR)
AM	Arts Menagers	(F)
BW	Bauen + Wohnen	(WG)
BM	Baumeister	(WG)
BLZ	Bellezza	(I)
CMR	Camera	(S)
CB	Casabella	(I)
CI	Ceramic Industry	(CI)
CM	Civiltà delle Macchine	(I)
CAM	Communication Arts Magazine	(A)
CR	Consumer Reports	(A)
DIH	Das Ideal Heim	(S)
DSZ	Das Spielzeug	(WG)
DI. SR	Decorative Art in the USSR	(USSR)
DS	Design	(B)
DQ	Design Quarterly	(A)
DM	Domus	(I)
EBL	Emballages	(F)
EGM	Ergonomics	(B)
FR	Form	(F)
FP	Furniture Production	(A)
GG	Gebrauchsgraphik	(WG)
GH	Good Housekeeping	(A)
GP	Good Packaging	(A)
GRS	Graphis	(S)
HFD	Home & Furnishing Daily (日刊)	(A)
HGA	House & Garden (アメリカ版)	(A)

雑誌略号	雑誌名	国別
HGE	House & Garden (イギリス版)	(B)
IBG	Imballaggio	(I)
ID	Industrial Design	(A)
IP	Industrial Photography	(A)
IT	Interiors	(A)
LAT	L'Architettura	(I)
LOC	L'Officiel	(F)
MD	MD	(WG)
MBL	Mobilia	(DEN)
MPC	Modern Packaging	(A)
MPL	Modern Plastics	(A)
PR	Progressive Architecture	(A)
TED	The Engineering Designer	(B)
VG	Vogue	(F)
ZD	Zodiac (年2回発行)	(I)
ZH	Zu Hause	(WG)

不定期購入刊行物

雑誌略号	雑誌名	国別
AGR	American Glass Review	(A)
ATR	America's Textile Reporter	(A)
AT	Arkitektur	(DEN)
GDA	Gifts & Decorative Accessories	(A)
GRK	Graphik	(WG)
HB	House Beautiful	(A)
LAD	L'Architecture d'Aujourd'hui	(F)
ME	Materials Engineering	(A)
MW	Modernes Wohnen	(S)

国別略号

A : アメリカ B : イギリス DEN : デンマーク F : フランス
I : イタリア S : スイス USSR : ソビエト WG : 西ドイツ